
密壳

凜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

密売

【Zコード】

Z0715E

【作者名】

凜花

【あらすじ】

高校生のミカは、下校途中で怪しい商人に会う。彼は大きい箱か小さい箱、どちらか一方をくれると言うのだが……。商人の商売方法とは一体!?世にも奇妙な物語感覚のブラックティストファンタジー!!!

(前書き)

読売新聞『有栖川有栖さんとつくる不思議の物語』（有栖川有栖さんが考えた書き出しに続けて小説を書くところ「一ナード」）に投稿する予定の作品です。

今回の書き出しへ、『大きな箱と小さな箱が目の前にある。ああ、どちらを選ぶ？』こんなことで迷うなんて、まるでおどき話だ。』
原稿用紙換算約3枚の超短編小説なので気軽にどうぞ。

大きな箱と小さな箱が目の前にある。さあ、どちらを選ぶ？　こんなことで迷うなんて、まるでおとぎ話だ。

一方には無限に広がる闇が、もう一方には一握りの光が入っていると商人はいう。

黒い衣装で全身を包み、黒い布に覆われたテーブルを前にしている商人は、どう見ても占い師だ。

事実、高校生のミカは初め、電柱に隠れるようにして机を広げている彼を占い師と勘違いして近づいた。しかし、近寄つてみると彼の机の上に占い道具はなく、真っ黒な小箱と黄金に煌めく大きな箱が置かれているだけだった。夏の夕暮れ、下校途中のことだ。

「どちらか好きな方の箱を持つていきなさい」と微笑む商人の目元には、枯渇した川のような皺が刻まれている。彼と向かい合っているミカは首を傾げた。

「くれるの？　お金は取らないの、商人なのに？」

「ええ、それが私の商売方法ですから」頭全体を隠す黒い布から目だけを覗かせて、商人はミカに囁いかける。

変なの、と訝しがる彼女だが、すでに心は二つの箱に惹きつけられてしまっているようだ。

さて、大きい箱か小さい箱か。こういう場合、大きな箱を選ぶことに懸念があるのはおどぎ話の影響だろう。けれど、太陽の粒子を四方に散らす大きな箱は彼女の心を掴んで放そとしない。

「決めた、一握りの光をもらうわ」

ミカは黄金の箱に手を伸ばした。鉄のように冷たくて重い質感が手に伝わり少し不安になる。それでも、闇の箱を選ぶよりもずっと安全な選択だと思えた。

再び帰路についた彼女は、空の色を反映して柔らかい朱色を帯び始めた箱に魅入られている。家まで待ちきれなくなったミカは、つ

いにその箱を開けてしまった。箱は上部が簡単に開くようになっていた。

彼女は意気込んで中を覗き込む。が、すぐに大げさなため息をついた。中身は空っぽだった。

「騙されたなあ、もう」

落胆して顔を上げたミカの前には、暗幕が張り付いたようなはつきりとした闇が広がっていた。突然奪われた視力に困惑し立ち竦んだミカの耳に、トントントンと規則的な音が聞こえてくる。その音は、やがてミカとすれ違離れていった。

少しして、例の商人の元を一人の男が訪れた。右手に持った白杖の先でトントントンとアスファルトを叩いて歩く姿から、目が見えていなことが窺える。左手には大きなアタッシュケースを提げていた。

「あの、ここで光が買えると聞いたんですが」

「君は運がいい。ついさっき新鮮なのが手に入つたところだよ」「これで譲つていただけませんか？」

男はアタッシュケースを開いて隙間無く埋められた札束を商人に見せた。商人は深く頷きそれを受け取ると、闇夜のように黒い小箱を男に手渡した。

盲目の男が箱を開くと、一瞬、その場がぼんやりと光った。そして、彼は恐る恐るといった仕草で空を仰ぎ見た。綺麗だ、と感嘆した彼の目に涙が滲む。

男が見上げた空には、朱い色水を流し込んだような見事な夕焼けが広がっていた。

(後書き)

読んでくれてありがとうございました。

途中、意味がわからないといふや違和感のあるところはありますか？

作者は良い批評だけでなく、厳しい批評もたくさんして欲しいと思っています。

何か感じたことがあれば、是非アンケートに意見をお寄せください。
よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0715e/>

密壳

2010年12月30日00時09分発行